

# 調査月報

## 【自動車】拡大する ETC 車載器市場

ETC 車載器の販売台数が増加している。ETC 車載器とは、有料道路でのノンストップ料金支払サービス（Electronic Toll Collection system）において、通行料金の決済のため車内に設置される通信端末を指す。2001 年のサービス開始から販売低迷が続いたが、足許では、約 2 倍の水準に急増している（図）。

これは、ユーザーにとって、車載器の導入メリットが高まったからに他ならない。まず、価格がサービス開始当初の半額以下に低下した。車載器では、個人情報保護や路上アンテナとの高速通信のため高価な専用部品を多用することから、価格が高くなりがちであったが、最近では、初期投資の回収が進んできたうえ、設計変更による部品点数の削減も順調に進んだ。さらに、2003 年以降、車載器購入資金の一部補助や ETC 利用車への通行料金割引など政府による優遇制度が拡充されたことも、値頃感の醸成に大きく貢献した。今後も、政府は ETC の利用促進を重点政策に掲げ、優遇制度を一段と拡充する可能性が高いし、自動車メーカーが新車への純正品装着を増やすとみられることもあって、車載器販売台数は着実に増加していく公算が大きい。

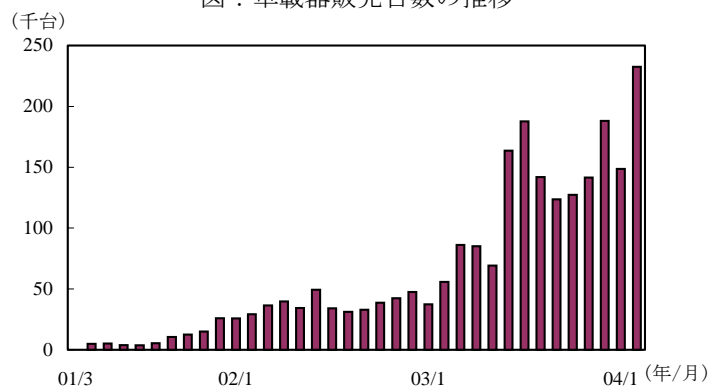
もっとも、こうした市場拡大とは裏腹に、参入メーカーの収益環境は厳しさを増すとみられる。第 1 に、価格引き下げ圧力が強まる。各社は、需要拡大への期待に加え、他社以上のスケールメリットを追求するため、積極的な設備投資を行っており、早晩、

生産能力が需要を上回る虞が強く、価格競争は熾烈化しよう。また、純正品の増加に伴い、自動車メーカーからの厳しい値下げ要請にも晒されることになりそうだ。第 2 に、ETC 関連サービスへの先行投資が負担となろう。高速通信が可能な ETC 車載器は、駐車場・ガソリンスタンド・ファーストフードなどでの料金決済サービスへの転用が期待されている。ただ、こうした分野では、サービスの種類や利用場所毎に決済方法や通信条件などが異なるため、各種サービスに対応できる機器やシステムの開発に少なからず先行投資を要する公算が大きい。

こうしたなか、上位メーカーは、積極的な規模拡大や内製する主要部品の素材・設計変更などのコスト削減で収益性を改善する余地があるのに対し、こうした対応が難しい下位メーカーは苦戦を強いられる虞も否定できない。市場拡大が見込まれる車載器だが、すべての参入メーカーが恩恵を享受できるわけではなさそうだ。

（3.29 松岡 純一）

図：車載器販売台数の推移



（資料）（財）道路システム高度化推進機構